

はじめに

循環ワーカー養成講座の今年のテーマは「人間の安全保障」です。

安倍政権が発足して以来、東アジア外交における緊張感がますます高まり、特定秘密保護法、集団的自衛権、憲法改正を含む「国家の安全保障」の問題が注目を集めています。

「人間の安全保障（Human Security）」は、アマルティア・センの影響を受けて1993年に国連開発計画（UNDP）が『人間開発報告』において唱えた「国家の安全保障」と対比される概念です。環境破壊、食糧や資源の欠乏、人権侵害、難民、貧困などの人間の生存、生活、尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威を包括的に捉え、これらに対する取り組みを強化しようとするものです。より根源的な「人間の安全保障」の視点から、国際平和を希求する日本の安全保障や環境問題を再考していただく機会になればと企画いたしました。

最初の講師である岩瀬氏は、内戦や貧困問題を抱える発展途上国だけでなく、いまや日本においても大震災や原発事故、経済格差の拡大など「人間の安全保障」への脅威が増していると指摘されました。また、わが国が小渕内閣のときに国連に「人間の安全保障基金」を設立し、その理念がまさに「人間の安全保障」であったこと、そして「人間の安全保障」は「国家安全保障」と相互補完的であることを教えていただきました。さらに、「ヒューメインシティ」すなわち人間らしい都市コミュニティを築く技術についてのお話の中では、日本の自然エネルギーや食料資源の豊かさを強調されていました。

柳平氏の講座は、いままでにないグループダイナミクスという手法で展開されました。「寡占化」が人間や社会に与える影響について柳平氏の書いたテキストや流通業、金融業の事例記事を読んでグループごとにディスカッションし、その内容を発表しあいました。最後には「シカゴプラン」という通貨・金融制度改革プランの話題も提供されました。これは、中央銀行と財務省を統合し、政府のみが通貨発行し、民間の信用創造を禁止することで債務・金融危機を回避するというものです。

田村氏は、経済主義に基づく近代化が、自然の破壊、地域共同体の破壊、精神と文化の破壊という3つの破壊をもたらしていると指摘されました。また、アベノミクスはタイミング良かったけど喝破した上で、物価上昇、国債下落、金利上昇、景気悪化、財政の崖と、その後の代償は大きいと予測されています。そして、この危機に対処するため、「無利子100年国債」で財政赤字の解消を図るべきと提言されています。

3人の講師のお話をお聴きし、世界的な資本主義システムの危機が、日本など先進国を含む「人間の安全保障」を脅かしつつあることを改めて認識させられました。

最後になりましたが、講師の方々、ご協賛いただいた企業の方々に心から感謝申し上げます。

2014年2月

NPO 法人循環型社会研究会 監事 久米谷弘光